

平成25年度第1回鎌ヶ谷市史編さん審議会議事録

- ①開催日時 平成26年1月31日（金） 13：30～15：00
- ②開催場所 鎌ヶ谷市立図書館3階 保育室
- ③出席者 委員 下津谷会長、村田副会長、横山委員、小出委員
（関根委員欠席）
職員 川西教育長、立野郷土資料館長（兼）学芸員、
手塚主事（兼）学芸員
- ④議題 以下の通り

委嘱状交付

開会に先だって川西教育長より小出委員へ委嘱状が交付された。

会議の公開について

立野郷土資料館長より、本会議は「鎌ヶ谷市における審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、案件（議題）に関係なく公開するものと定められていることについて報告があったのち、出席の全委員によって会議の公開を決定した。

【傍聴人入場】

1 開会（司会：立野郷土資料館長）

2 教育長あいさつ

川西教育長より市の学校教育・社会教育の整備状況等について紹介があったのち、市史編さん事業が28年度で終了を迎えることから、これまで収集した膨大な史料を事業終了後いかに活用していくかについて助言をいただきたいといった趣旨のあいさつがあった。

3 会長あいさつ

教育長あいさつを受けて下津谷会長から、市史編さん事業で収集した膨大な資料は市民の皆さんから多大なご協力をいただき集めたものであり死蔵するわけにはいかない、活用していくための方策を考える必要があり、市教育委員会の尽力を乞う旨あいさつがあった。【あいさつののち教育長所用のため退席】

4 議事(司会:下津谷会長)

■ (1)平成 25 年度市史編さん事業進捗状況報告について

手塚主事より資料1・2にもとづき説明があった。

質疑

- 【村 田】 市史編さん事業団近代部会・現代部会において現代部会長の選任について話しあいがあったという点について、詳細に説明してほしい。
- 【手 塚】 現代部会長より部会長退任の申し出があったため、後任の選出について両部会で話し合いが持たれた。話し合いのなかで、近代部会・現代部会は形式上別の組織となっているが、活動をともし、会議なども共同して行っている、よって現代部会長退任を機に両部会を統合し、現任の近代部会長が統合後の近・現代部会長に就任するのがよいという結論となった。話し合いの後に開かれた事業団役員会兼総会で規約が改正されるに至った。
- 【下津谷】 現代部会長は部会からも退任するのか。
- 【手 塚】 部会には留まり、原稿執筆等を行う。
- 【下津谷】 市史上巻（改訂版）の入札に応じたのは何社くらいか。
- 【手 塚】 入札の場に立ち会って視認した限りでは、7社程度が参加していた。
- 【下津谷】 整理した資料の中に高橋良治家旧蔵文書（鎌ヶ谷の自然と文化財を守る会関係）とあるが、これは松戸市にある団体と同一の会か。
- 【手 塚】 この団体は鎌ヶ谷の人々が作った団体であり、独立した団体である。近隣の団体との連携はしていたようである。
- 【下津谷】 教育普及について。市史研究講座の参加者は何名か。
- 【手 塚】 これから開催のため参加者は不明だが、三橋家文書と牧という内容であることから多数の参加がいただけるのではないかと思われる。
- 【下津谷】 三橋家文書の点数はどの程度か。
- 【立 野】 点数は数百点でありそれほど多いわけではないが、牧に関する資料が豊富であり、その点が貴重である。
- 【小 出】 近世部会・民俗部会は特に活動はないとのことだが、予算措置がなされている。この点について説明をしていただきたい。
- 【手 塚】 近世部会・民俗部会については担当している書籍が既に刊行されていることから、部会長お一人のみが属しておられる状況である。活動は、事業団の役員会・総会への出席、突発的に発見された史・資料への対応、昨年度よりはじめた教育普及事業に関する予備調査・補助調査であり、これらに要する経費を計上している。

■ (2)平成 26 年度市史編さん事業計画(案)及び予算(案)について

手塚主事より資料3・4にもとづき説明があった。

質疑

- 【村 田】 平成26年度の事業計画にある教育普及の自然観察会・市史研究講座の内容について、具体的に案があるか。
- 【手 塚】 自然観察会については秋・春と例年どおり開催予定である。
- 【立 野】 斯くと決めたものがあるわけではないが、近年は民俗関係の講座を行っていないのでそのような内容を検討している。早急に話を詰めて事業団と相談したい。
- 【村 田】 市史の資料編1の原始・古代が刊行された時は講演会を行った。上巻（改訂版）刊行後にそのような予定はあるか。
- 【立 野】 今後検討したい。
- 【下津谷】 28年度の市史編さん事業の終わりが近づいている。集めた資料をどのように活かすかが重要である。博物館での展示という活用方法はあるが、すべて出し切れるわけではなく、展示だけでは不十分である。活用について念頭に置いて考えてほしい。
- 【立 野】 計画どおり進めば28年度で事業が完結する。集めた資料は現物のもの、複製したもの、二次資料等があり膨大である。そういった資料を市民の皆さん、研究者の方々に利用していただくことの重要性については、問題意識としては有しており、これまでも内部で議論をしている。26年度からは審議会の中でもご議論いただきたい。
- 【下津谷】 新設の市民会館に展示室はあるのか。
- 【立 野】 現在の三橋記念館の展示室よりは縮小される。従って郷土資料館の企画展は現在の形式ではできないため、どのような形で開催するかについて内部で検討している最中である。
- 【村 田】 教育普及活動は重要だが、資料の収蔵の問題がある。郷土資料館内にある文化・スポーツ課文化系の資料・書籍を含めて、郷土資料館の収蔵スペースが飽和状態にある。今年度は上巻（改訂版）、28年度までは下巻の編集があるため忙しいことはわかるが、将来的に膨大な史資料をどのように保存するのか考える必要がある。
- 【立 野】 現状としては資料館内の書庫・保存庫等に保存しているが、ご指摘のとおり余裕がない状態である。
- 【横 山】 どの館も収蔵庫が満杯になっている。

5 その他(司会:立野郷土資料館長)

■ (1)平成 25 年度企画展・第 14 回ミニ展示・その他展示について

立野郷土資料館長及び手塚主事より資料5・6・7に基づき報告があった。
→質疑なし

■ (2)平成 26 年度の郷土資料館の展示について

手塚主事より資料8に基づき報告があった。

【下津谷】 屋上外壁工事を行うということだが雨漏りをしているのか。

【手塚】 公共施設の長寿命化の取り組みが市全体でなされている関係で、郷土資料館も工事を行うこととなっている。現段階で雨漏りが発生している訳ではない。壁面は10月の台風で破損(剥離)してしまった箇所があるが、事業自体はそれ以前から予定されていたものである。

6 閉会

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成 26 年 3 月 7 日

署名人 横山 謙次 ㊟